

初産婦の夢

—妊娠・育児期の夢に現れた動物の意味の検討—

山根 望*・名島潤慈

An Analysis of Animal Dreams of Primiparae during Pregnancy and Child-rearing

YAMANE Nozomi and NAJIMA Junji

(Received September 26, 2008)

キーワード：妊娠・育児期、初産婦の夢、動物

I 本稿のねらい

少子化や女性の社会進出による晩婚化によって、あるいは幼児期における子どもとの接触経験の少なさから、女性が子どもを産み、育てることが女性自身にとって未知で非常に不安の多い事柄の一つになった。特に初産婦は激しい身体的変化を経験すると同時に、それまで形成してきた母性や母性意識をさらに発達させ、かつ、新たに母親意識や母親同一性を形成しなくてはならない。

ここでわれわれが考える「母性」(maternity, motherhood)とは、生理・妊娠・分娩・授乳といった女性および母親特有の身体的機能と、(自分の子どもをも含めて)すべての子どもたちや小動物といった自分よりも弱いものに対する特別な感情といったものである。「母性意識」(maternal concept)とは、実母や周囲の母親から世話されることによって形成される意識で、「母親とはこういうものである」といった知識とイメージの集合体と言える。「母親意識」(maternal consciousness)とは、妊娠が判明したあと母性や母性意識からの知識や情報を用いて構築していく母親としての自己イメージ、母親としての適切な行動と選択、およびわが子に対する適切な態度や特別な感情である。最後の「母親同一性」(maternal identity)は非常に広義で、意識的側面だけでなく無意識的側面も含む。また、母親としての自己受容と肯定感はその重要な構成要素である。つまり、母親同一性は、母性、母性意識、母親意識を包括しており、母性、母性意識、および母親意識が十分に発達したうえで母親同一性は獲得される。また、職業同一性、民族的同一性といった他の同一性と複雑に絡み合っており、互いの発達に影響を及ぼしているものと思われる(以上の記述は山根ら, 2008を参照)。

現在、われわれは意識的側面だけでなく無意識的側面も含めて、女性が初めての妊娠を自覚してから、母性や母親同一性を発達させるプロセスを調査している。そのさい、無意識的側面が投射されている夢を聴取している。これまでの研究から明らかとなった妊娠・育児期における夢の特徴としては、①妊娠・育児期における夢は妊娠していない男女の夢とは異なって色彩豊かで奇妙な内容が多いこと(Maybruck, 1990)、②夢のなかの感情としては不安や恐怖が

* 山口大学大学院東アジア研究科

よく現れること（武内，1984；的場，1998；原田，2006；鱧，1979）、③妊娠期の夢に表れる感情を吟味する場合、これまでよく用いられている Hall & Van de Castle (1966) による6つの感情分類カテゴリーといったものでは不十分であり、「幸福感」「親愛感」「罪悪感」「焦り」など合計16個の感情カテゴリーで細かく見ていく必要があること（名島，2008；名島ら，2008を参照）、④妊娠・育児期の夢には母親同一性の様態を現わしたり、育児に対するアドバイスを夢主に与えたりする機能があること（山根，2006）が挙げられる。

ところで、われわれが初産婦の夢を分析しているさい、初産婦の夢には印象的な動物が多く、しかも動物には妊娠・育児期特有の意味があるように感じられた。したがって本稿では、5人の初産婦の夢に現れた動物の意味や役割について吟味し、妊娠・育児期における夢について考察したい。

II 検討対象の夢の数

検討の直接資料はわれわれの手元にある夢で、それらは、①出産時27歳の初産婦 A の、妊娠7か月から出産までの計3個と産後3か月までの計3個の夢、②出産時30歳の初産婦 B の、受胎から出産までの計98個、産後3か月までの計9個の夢、③出産時30歳の初産婦 C の妊娠1か月から出産までの計31個、産後3か月までの6個の夢、④現在妊娠10か月の初産婦 D の妊娠8か月までの計15個の夢、⑤出産時26歳の初産婦 E の、妊娠5か月から出産までの計40個の夢と産後3か月までの計47個の夢（原田，2006の修士論文の付録に記載されているもの）である。また、的場（1998）の論文に記載されている夢（妊娠7か月から出産まで計23個と産後5か月までの計19個の夢。本論文では夢主を F とする）も参照する。ただし、的場（1998）の場合、論文への記載上、夢内容はごく簡略化されている。

以上の初産婦のなかの A・B・C・D の夢は、われわれが「能動的夢分析」（名島，2003）をもとにして収集・調査したものである。A の詳しい夢内容と分析については「妊娠・子育て期における夢の機能—ある初産婦の能動的夢分析から」（山根，2006）を参照されたい。

III 妊娠期の夢に現れた動物

本稿では夢主と夢に現れた動物の関係性や夢主の連想に注目して、実際には夢のなかで登場しておらず夢主のイメージとしてだけ登場している動物やゾンビといった、人でも動物でもないものについても本稿では検討対象としたい。なぜなら、実際に登場せずとも夢主のなかで確かにその動物は存在していたわけであり、その動物が夢内容の主要な要素の場合、検討対象から除外することは初産婦の無意識的側面をとりこぼしてしまう恐れがあるからである。また、ゾンビや妖怪といったものは、確かに人型ではあるけれども、意思疎通の欠如や本能的・衝動的行動を考慮すると、人間というよりはより動物的な要素を含んでいると考えられる。

1. 妊娠初期（妊娠1か月から4か月まで）

妊娠初期に現れた動物は、初産婦 B の夢のなかでは、①「私を狙っている大きくて黒いスズメバチ」（妊娠2か月：その姿はまったく見えないがイメージで分かる）、②「黄色いインコの子に襲いかかろうとする黒っぽい猫」（妊娠4か月：従姉の女の赤ちゃんがインコの子どもに変わっていた）、③「私と夫に甘えてくる小さなトラ猫」（妊娠4か月）、また、初産婦 C の夢には、④「知人から飼うように頼まれた、目がくりくりしたグレーのウサギ」（妊娠1か月）が登場した。

初産婦Bは、①の夢のなかでいつ襲ってくるのか分からない大きくて黒いスズメバチに対して、不安と恐怖を感じていた。「スズメバチ」についての連想は、「怖い。いつ襲ってくるのかわからない。襲われたら、自分ではどうすることもできない」というものであった。また、夢全体に関する感想のなかでBは、「夢のなかで感じた不安は、流産するんじゃないかという不安の現れだろうと思う。流産し始めたら、自分ではどうすることもできないから、すごく不安」と書いている。つまり、大きくて黒いスズメバチはいつ始まるか分からない流産に対する夢主の不安や恐怖を現わしていると言える。

次に、②の夢内容は、仲の良い従姉が産んだ赤ちゃん（女兒）が黄色いインコの子どもになってしまい、そのインコに黒っぽい猫が襲いかかろうとしていてBが必死になって猫を追い払うというものであった。インコからBが思い浮かぶことは、「インコは可愛いと思うけれどあまり好きじゃない。実家で飼っている。黄色は幸せとか希望の色。黄色いインコの子どもはささやかな幸せ？胎児の象徴？」で、「黒い猫が襲う」についての連想は、「突然の不幸。忍び寄る悪意。黒は不幸とか死とか悪意」というものであった。全体感想質問に対する応答は、「従姉の赤ちゃんがインコの子どもになったけれど、あれは私の赤ちゃんかもしれない。検診が4週間に1回になって超音波で赤ちゃんを長くみていないし、つわりも終わったし、特に異常もないので『本当に赤ちゃんがいるのかな』と思うことがある」というものであった。②の黄色いインコは従姉の赤ちゃんが変化したものであるが、インコに関する連想でBが「胎児の象徴？」と書いていることと、Bが現実生活で「本当に赤ちゃんがいるのかな？」と子どもがいることになかなか実感が持てないでいたことを考えると、おそらく黄色いインコ（従姉の赤ちゃん）はBの胎児の象徴で、従姉の赤ちゃんであったことは胎児に対するBの心理的距離を現わしていると思われる。また、「不幸とか死とか悪意」を現わす黒猫からインコを守ろうとしたBの行動を考えると、わが子を守りたいという母親意識がBに育ちつつあったことがうかがえる。

③の夢のなかでトラ猫は、風通しのために開けておいたアパートの玄関の隙間から入ってきて、夢主やその夫に甘える。大変可愛らしくて、夢主と夫はトラ猫をお風呂に入れて体を洗ってやり、そのあと夢主がトラ猫をタオルで拭いてやると、体が乾いたトラ猫はまた夢主に甘えてくる。このトラ猫についてのBの連想は、「夢のなかで夫と2人で子猫をお風呂に入れていたので、赤ちゃんの象徴かもしれない」というものであった。また、「夢のなかで子猫が可愛くてしかたなかった。でも、飼うとなると面倒なことも増えるな、と思っていた。子どもは可愛くて仕方ないけれど、いざ生まれたら面倒なことも多いだろうな、ということと似ている」と書いている。Bの記述を見ると、夢のなかで夢主に甘える小さなトラ猫は、夢主のお腹のなかにいる胎児と結びついていると言える。また、トラ猫は夢主にとって慈しみの対象であることと、夫と共同して世話しなくてはならない対象であることから胎児の象徴であることは明らかであろう。この夢はまた、赤ちゃんを沐浴させるという出産後の育児を練習させる夢であったと思われる。

④の夢のなかでCは、知人からグレーで目がくりくりした、可愛いウサギを飼うように頼まれ、不安ながらも承諾する。「ウサギ」から連想することは、「かわいい。小さい。ペットのウサギは自力では生きていけない」で、「グレー」に関してCは、「最初は、性別が分からないということかと思った。妊娠したことはとても嬉しかったが、ほぼ3年間夫婦だけで暮らしていたので生活が変わることに戸惑いもあったし、子育てに対する不安も大きかったので、そういう気持ちを反映したのかな？とも思う」と書いている。Cはウサギに対する連想のなかでウサギが胎児であると明言はしていないが、このウサギの夢が妊娠に関係していることは確

かであろう。ウサギの色は、胎児が男か女か分からない不明瞭さと、育児に対する C の不安を現わしたものであると言える。

2. 妊娠中期（妊娠5か月から7か月まで）

妊娠中期に B が見た夢のなかに現れた動物は、①「病気にかかっているような白い猫」（妊娠6か月）と②「2匹の黒蛇と青と赤のまだら模様のある3匹の白蛇」（妊娠6か月）であった。C の場合には、妊娠中期には動物は登場しなかった。E については、③「夢主の足に巻きついた茶色のヘビ」（妊娠5か月：夢主がいた車のあちこちに蛇が入ってくる）というものであった。ところで、D については、「夢主を追いかけるエイリアン」（妊娠5か月：ビニールハウスにいたおじさんが途中で黒い物体のエイリアンになった）というものがあるが、エイリアンは黒い物体ということでそれ以上分からなかった。非常に漠然としているのでここでは対象から除外する。

B が見た①の夢は、白い猫が病気になってしまい、外出先からかかりつけの動物病院に必死で行こうとするが場所が思い出せないというものであった。白い猫は B が実際に飼っていた猫で、数年前に何者かによって毒殺された。B にとって猫の世話をすることは飼い主としての責任が生じるものの、同時に楽しいものであったようである。B はつわりと夏の暑さで体力が落ちてしまっていたようである。夢記録には、「病院にはこの日の午前中に行った。前日、前歯の歯茎がじんじんと痛み出して、夜には腫れてしまった。『これは病院に行かないといけん』と思った。それで、こういう夢を見た可能性が高いかもしれない』『今まで元気だった白い歯の調子が悪くなっているよ。病院に行きなさいね』という夢のメッセージかもしれない」と書かれている。このことからすれば、病院で適切な治療を受けなくてはならない白い猫と、歯科治療を要する夢主とは重なっていると思われる。

②の夢は、まず黒蛇2匹がBの布団のそばを這って押入れのなかに入り、次いで赤と青のまだらの白蛇3匹がBのお腹の上を這って押入れのなかに入るという奇妙な夢であった。白蛇についてのB自身の連想は、「赤ちゃんの性別が分からないので、青と赤のうろこがあったのだと思う。お腹を這って行ったのは胎動を表わしているように思う。『うわ〜』とびっくりしたのが、胎動があるときと似ている」というものであった。Bにとって黒い色は死や悪といったイメージらしいが、2匹の黒蛇に関しては肉体的な夫婦の関係という連想であった。Bが白蛇を自分の子どもとしてとらえていることと、蛇がお腹の上を這う驚きと胎動の驚きを結びつけていることからすれば、白蛇は胎児と結びついている。おそらく、胎児がお腹のなかでぐるぐるとうごめく感覚と、とぐろを巻いたり、くねくねと移動したりする蛇の動きとは共通したものがあられると思われる。

③の夢のなかでEの夫は釣りをしており、Eは車のなかで本を読んでいた。すると蛇が足に巻きついており、慌てて振り払うと車のあちこちから蛇が入ってきて気持ちが悪くなった。

蛇についてのEの連想は、蛇の皮を財布に入れるとお金がたまるという迷信から「お金」で、それから面接は出産後の新居についての話題に変わった。Eとの面接から原田は、「出産後に家族3人で住むには現在の家（1LDK）では狭く、新居を探さなければならないという焦り」がこの夢のテーマであると分析している。確かに、新居に対する焦りはEにとって主要なテーマの一つであっただろうが、③の重要な要素である身体的気持ち悪さについても注目したならば、妊娠に関する心理的事柄がさらに出てきたかもしれない。③は胎動とは関係ないとしても、たくさんの蛇が現われて夢主が非常に驚く夢をBとEが妊娠中期に見ていたことは非常に興

味深い。腹部が出てきて胎動が始まる妊娠5か月、6か月ごろの初産婦自身の驚きが現われたのかもしれない。

3. 妊娠後期（妊娠8か月から出産まで）

妊娠8か月になったAの夢には、①「海のなかに浮かんでいたが漁師たちにふぐ汁にされたふぐ」が登場した。次に、Bは②「体育館のなかにいる牛や馬や象などのたくさんの動物」（8か月）、③「つながれた黒い熊とそのまわりで吠える茶色の日本犬」（妊娠9か月）、④「実家の前の道路に山積みされた生魚と湯がいた蟹」（妊娠9か月）、および⑤「Bに向かってくるティラノザウルスと小型で獰猛な恐竜」（妊娠9か月）が報告された。また、Eの夢には⑥「いとこの息子とはねる蛙」（妊娠8か月）が登場した。加えて、Fの夢には⑦「夢主がライオンの赤ちゃんを檻のなかに戻そうとしたら吠えた親のライオン」（妊娠9か月）と⑧「プールのなかのたくさんの鯉」（妊娠9か月）が登場した。

①の夢のなかでAは、1メートルくらいのとらふぐが海のなかに浮かんでいるのを見つける。そのとらふぐは漁師たちによってふぐ汁にされて、AとAの夫にもふるまわれた。しかし、Aは妊娠していることを思い出して食べなかったという内容であった。①に登場したとらふぐは胎児の象徴ではなく、妊娠によって生活が変わる女性と生活が変わらない男性というAの男女観を現わしている（山根、2006）。

次に、②の夢のなかでBは、大勢の人と牛・馬・象などたくさんの動物がいる体育館のなかにいた。あたりはざわざわとしていたが、楽しげな様子だった。ある男性が「ノアの方舟を知っているか？」と大声で叫んで、Bはノアの方舟の物語を思い出そうとしたところで夢は終わる。夢に登場した動物に対する連想は、「牛は乳製品とか大きいとか、気性がやさしいというイメージ。人間の生活には欠かせない存在。馬はかっこいい、機敏、運搬に必要な動物。象は大きい、優しい、頭がよい、荷物の運搬に必要。どの動物も人間とのかかわりが深い動物だと思う」というものであった。また、ノアの方舟に関しては、「旧約聖書。大洪水。生き残り。大洪水から思い浮かぶことは、羊水とか破水とか」「この夢を見た日、8か月に入った。まだ大丈夫だろうと思っているけれど、破水したらと思うととても不安になる。尿と区別がつかない場合もあるらしいから、いざ破水してすぐに病院に行けるかどうか不安なのかもしれない」と書かれていた。牛・馬・象といった動物が妊娠期特有の事柄と結びついているかどうかは分からない。以上のことからすれば、破水に対するBの不安がノアの方舟の状況と類似した体育館に現れたと言える。

③の夢（夢内容：甥や姪と遊びに行ったらすり鉢状の遊び場にクマがつながれていて茶色の日本犬が吠えている）に現れた犬や熊に関してBは、「（熊は）エネルギーのある動物。（中略）同時に熊に遭遇したらすごく怖いだろうなと思う。（日本犬は）凛々しい。小さいけれど頭のよい感じがする」と述べていた。これ以上の考察はないので、③に登場した犬や熊は妊娠に関係したものではないと思われる。

④の魚のあらや湯がいた蟹はBの実家の向かいに住む漁師が実家の前の道路に山積みにしていたものである。魚のあらや蟹に関しては、「蟹やら魚は好きだけど、今はあまり食べられないもの。漁師さんの家にお邪魔すると強い魚のにおいがしていた。蟹はスーパーで、いわゆるガザメ（筆者注：Bの地元の蟹の呼び名）を見たので地元を思い出したのだろうと思う。それと、妊娠して分泌物が増えたり代謝がよくなったせいか、自分の体臭が増している気がする。人に会うときに気になるので、こういう夢を見たのかもしれない」と書かれている。つまり、

漁師をしている向かいの家の臭いと妊娠後期になって気になりだしたBの体臭とが結びついている。つまり、魚のあらや湯がいた蟹は、自分の体臭に対するBの懸念を現わしている。

⑤で登場したティラノザウルスは大学に現れ、Bも含めて大学中をパニックに陥れる。Bが学食にたどり着くと、周囲の学生が楽しげに食事している。Bも食事しようかと思ったときに、臙猛な小型の恐竜が現われ、恐怖でいっぱいとなったBは民家に逃げ込んだ。恐竜に関するBの連想は、「臙猛。情け容赦ない。肉食。恐怖。自分ではどうすることもできない巨大な力。陣痛のこと？」というものであった。夢全体の意味については、「ただ、恐竜に追いかけて怖かったという場面には、陣痛が来たらどうしようとか痛いのは嫌だな、怖いなという気持ちが表れていると思う。隠れたいけれど隠れても無駄だろうというところも、『ここまで来たら陣痛から逃げられない』という気持ちと共通している」と書いている。恐竜の突然の登場によってパニックとなるBや周囲の人々には、出産に対するBの不安や恐怖がよく現われている。「恐竜の来襲＝陣痛」というBのとらえ方は、いかに初産婦にとって出産が突発的で危機的なものであるかということを見せてくれる。

⑥の夢のなかに登場した蛙に対するEの連想は、「嫌なもの」「ベランダに多くいて嫌」といったものであった。また、夢のなかでEが蛙から逃げようとしていることについては、Eは、「逃げたいものは腰痛」と述べている。このようなことからすれば、⑥の蛙は、妊娠後期に入ってEの腹部が大きくなったことで生じてきたEの腰痛（それから逃げたいもの）を表しているものと考えられる。なお、⑦と⑧の夢については詳細な記録がないのでよく分からない。

4. 妊娠期のまとめ

妊娠初期の夢に登場した動物は、①流産に対する夢主の不安、②慈しみの対象としての胎児の象徴、③育児に対する不安であった。妊娠中期では、①妊娠によって体力が落ちてしまった夢主の自己イメージと、②胎動に対する夢主の驚きを現わしていた。妊娠後期では、①夢主の男女観の象徴、②出産や陣痛に対する夢主の感情（不安・恐怖・楽しみ）、③妊娠による身体的変化に対する夢主の感情（体臭に対する懸念・腰痛に対する嫌悪）が見られた。

Garfield (1990) と Maybruck (1990) は、妊娠の経過が進むにつれて動物の夢が増え、動物の種類も変化すると述べている。例えば、妊娠初期の女性の夢には、オタマジャクシやサンショウウオなどの水生動物が現れる。また、妊娠中期には、子猫や子犬などの非常に可愛らしい動物が夢に現れ、妊娠後期になると、猿のような動物もしくは他の大きな動物が夢に現れる。彼らによると、妊娠の経過とともに夢に現れる動物が大きくなっているため、これらの動物の夢は胎児を象徴しているという。

本論文では、夢に現れた動物の種類は、妊娠初期が①スズメバチ、②ウサギ、③トラ猫、妊娠中期が①白猫、②蛇、妊娠後期が①ふぐ、②牛、②馬、③象、⑤熊、⑥犬、⑦死んだ魚、⑧死んだ蟹、⑨ティラノザウルス、⑩蛙、⑪ライオン、⑫鯉であった。今回の調査では、妊娠経過が進むにつれて動物が大きくなるという変化は見られない。比較的夢が多かったBだけを見ると、「スズメバチ→トラ猫（子猫）→白猫→牛・馬・象→熊→犬→死んだ魚→死んだ蟹→ティラノザウルス」と変化しており、確かに動物自体は妊娠経過が進むにつれて大きくなっている。しかし、大きくなっているから胎児の象徴であるというGarfield (1990) や Maybruck (1990) の主張は見直しが必要であろう。なぜなら、妊娠期の夢に現れた動物は胎児を現わしているばかりでなく、その時々夢主の身体的・心理的・社会的様態を現わしている場合があり、より慎重な調査と分析を要するからである。例えば、動物が大きくなっているとはいえ、ティラノ

ザウルスは胎児の象徴ではなく陣痛に対する夢主の不安や恐怖を現わしているからである。

Ⅳ 育児期（出産から産後3か月くらいまで）の夢に現れた動物

産後にAから報告された夢のなかには、①「雪山のなかで死んでしまった黒い犬」（産後1か月後半：生き返らせるために夢主が必死で授乳する）が、Bの夢には②「知合いの自動車整備工場でしっぽをふって夢主に甘える茶色の雑種犬」（産後3日目）、③「治療中で抜けてしまった夢主の歯を食べた黒猫」（産後3日目：黒猫は夢主が可愛がっていたが数年前に死んだ）、④「夢主の夫となった芋虫」（産後12日目：芋虫はイメージで実際には現れていない）、⑤「夫と夢主を追いかけるゾンビ」（産後15日目：ゾンビは声のみで実際には現れていない）、⑥「家のなかに入ろうとする黒い熊」（産後1か月）が現われた。CとEの夢には動物は現れず、Fの夢のなかには⑦「夢主が大切に育てていたが、水を換える時に見失ってしまったおたまじゃくし」（産後3か月）が登場したのみであった。

①の夢のなかでAは、雪山のなかを夫の両親と黒い犬とともに歩いている。すると、黒い犬が死んでしまう。Aは悲しくてたまらず、生き返らせようとAは必死で犬に授乳する。「犬が息子だと思う。『失いたくない』という気持ちですね」というAの感想からすれば、黒い犬はAの息子の象徴であり、授乳の困難さ（当時Aは乳腺炎などで授乳に困難を感じていた）と、息子を失うのではなからうかという対象喪失不安をよく表している。

Aはまた、「それまでは息子が出ていた夢は覚えていないので、息子が出てきた最初の夢かな。でも、犬だから、まだ人間じゃないですよ。Bが自分の息子だって、自分が母親だって自覚はついてきたけど、人間じゃないから半分くらい（自覚が）ついてきたってことでしょか」と述べている。息子が初めてAの夢に現れたこと、それも人間ではなくて犬として現れたことは非常に興味深い。息子を象徴する存在が夢に現れたことでAは、自分に母親としての自覚が以前よりついてきたことを自覚した。同時に、息子が犬であったことから、母親としての自覚がまだまだ不十分であることにも気づいた。つまり、この夢はAに母親同一性が形成されつつあることを教えたと考えられる（山根、2006）。Fの夢に関しても、的場が「オタマジャクシをわが子として表しているが、夢主の子どもを大切に思う気持ちがよく表れている。ところが、水を替えようとしたとき、わが子のオタマジャクシを見失ってしまう。これはいつ何時、大事な子どもを失うかもしれないという不安を示している」と述べているので、①の夢に現れた黒い犬と同様の意味を持っていると言える。

②と③の夢に現れた犬と猫については、特に妊娠や育児に関係するBの連想はなかったもので、これらの動物の意味についてはよく分からない。

④の夢のなかでBは、姿こそ見えないが芋虫と結婚している。芋虫からBが連想することは、「もぞもぞ。人間ではない。気持ち悪い。夢のなかではそんなに気持ち悪くなかったけれど、芋虫と結婚している状況は変な感じがしていた」「芋虫は息子だと思う。もぞもぞしている様子は芋虫を想起させる。結婚相手が芋虫だったことは、今は夫よりも息子との関係が重要になっていることの現れだろう」というものであった。したがって、芋虫はBの息子の象徴で、当時Bが息子との関係を夫以上に重要なものにとらえていたことが分かる。しかし、「芋虫と結婚している状況は変な感じがしていた」とあるように、Bは息子との生活に違和感を持っていたようである。

次に、⑤の夢のなかでBは、夫と建設途中の高速道路を運転していたらいつのまにか川を渡っている。川のなかにゾンビがいることが分かって洋館に逃げ込むがゾンビが追いかけてきて(実

際には声のみ)、夫と協力して洋館から脱出しようとした。ゾンビから B が連想するものは、「人のようで人でないもの。ゾンビは息子だと思う。人間のように人間ではない。言葉が通じない。でも、自分の要求だけはあって、それで私たちを離さない」であった。B はまた、「夫と協力して縄を作っていたことは、夫も一緒になって苦しんでくれていることを意味していると思う。夫はできるだけ家事や育児を手伝ってくれている。日々の子育てを夫とともに乗り越えようとしているのだと思う。ただ、息子だと思うものが芋虫だったりゾンビだったりしていて、私のなかで息子を受け入れられていないのだろうな、と思う」とも書いている。

動くことはないが泣いて要求する息子と、姿は見えないが声をあげて追いかけてくるゾンビとが結びついている点が非常に興味深い。夢のなかの B のパニックと恐怖を見ると、当時の B にとって育児がどれほど困難なものであったかが分かる。B の言葉から明らかなように、ゾンビは B の息子であり、B を精神的に追い込み、苦しめる対象であり、ここには B が息子を受け入れられていないことが現われている。したがって、B の母親同一性は産後15日の時点ではまだまだ未発達で、B が育児を否定的にとらえていることが分かる。

⑥の夢は、黒い熊が家のなかに入ろうとしたけれど何とか逃げおおせたという内容であった。黒い熊についての B の記述は、「好きでも嫌いでもない。クマといえば、そういえば赤ちゃんの布団とかベビーグッズの模様が多いな、と思う」「黒いくまも育児不安なのかな、と思う。育児不安というか、いつそういう困った状況になるかわからないという不安の現れかもしれない。一応、逃げおおせたということは、不安な気持ちはあるけれども、ちょっとは対処できるようになったということかな、と思う」であった。以上のことから、黒い熊は B の育児不安を現わしている。ただし、B が何とか黒い熊に対処できたということは、産後1か月が経って若干育児に関する B の不安や困難さが軽減したことをも示している。

以上のことからすれば、育児期の夢に現れた動物は、①赤ちゃんに対する夢主のイメージ（愛着対象・夢主を苦しめるもの）、②対象喪失不安、③母親同一性の様態といったものを呈示する機能があると思われる。特に、B の育児期の夢には、妊娠期以上に動物が登場している。そして、⑥の夢以後、B の夢には実際の赤ちゃんが登場し、B は泣きながらわが子を抱き上げた。その夢を見て B は、「私は母親になったんだ」という境地に至った。「芋虫」→「ゾンビ」→「赤ちゃん」と夢のなかで赤ちゃんがより実際の赤ちゃんに近づいてゆく過程は、B が不安と困難に満ちた育児を経験するなかでわが子を自分の子どもとして受け入れることができた過程を表わしているよう。

B の産後の夢に現れた動物（あるいは動物的なもの）を見ると、Garfield (1990) や Maybruck (1990) の主張はどちらかといえば育児期にあてはまり、夢のなかの動物の変化は、女性が母親として子どもを自分の子どもとして受け入れるプロセスを現わしていると言えるかもしれない。ただし、赤ちゃんを切望していた B でさえ息子を受け入れるまで約3か月かかったことを考えると、女性が子どもを受け入れ、育児を肯定的かつ能動的に行うことができるようになるまでには多くの時間を要すると思われる。

V おわりに

われわれは本論文において、妊娠・育児期の夢に現れた動物について吟味してきた。その結果、妊娠・育児期の夢に現れた動物はさまざまな種類のものがあり、胎児に対する夢主のイメージだけでなく、妊娠・出産・育児に関係する夢主のさまざまな心理的側面を含んでいることが分かった。また、動物が現われた夢の多くは流産、出産、あるいは育児などに対する夢主の強

い不安や夢主の赤ちゃんのイメージを現わしていた。なお、夢のなかに見られた配偶者（夫）との親和的な共同作業は、出産後の育児面における親和的な共同作業を予期させる。このように、夢に現われた動物は、妊娠・出産という大きな変化を経験している夢主についての豊かな情報を含み持っている。

文 献

- Garfield, P. (1990) : Woman's body images revealed in dreams. In S. Krippner (Ed.), *Dreamtime and Dreamwork*. Los Angeles: Jeremy P. Tarcher, 152-160.
- Hall, C. S. & Van de Castle, R. L. (1966) : *The Content analysis of dreams*. New York : Appleton-Century-Crofts.
- 原田梨沙 (2006) : 妊娠・出産・育児期における女性の心理的プロセス—ある初産婦の夢分析から。山口大学大学院教育学研究科修士論文。
- 的場みぎわ (1998) : 妊娠・出産・育児過程における女性の夢の研究。箱庭療法学研究, 11(2), 85-92.
- Maybruck, P. (1990) : Pregnancy and dreams. In S. Krippner (Ed.), *Dreamtime and dreamwork : Decoding the language of the night*. Los Angeles : Jeremy P. Tarcher, 143-151.
- 名島潤慈 (2003) : 臨床場面における夢の利用—能動的夢分析。誠信書房。
- 名島潤慈 (2008) : 夢のなかに表示される感情の分類。山口大学心理臨床研究, 8, 3-12.
- 名島潤慈・山根望 (2008) : 妊娠期における夢のなかの感情についての検討。山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要, 25, 375-386.
- 武内珠美 (1984) : 妊産婦に関する夢の研究—夢に表わされた情動と夢内容について。広島大学大学院教育学研究科博士課程論文集, 10, 139-145.
- 鑪幹八郎 (1979) : 夢分析の実際—心の世界の探求。創元社。
- 山根 望 (2006) : 妊娠・子育て期における夢の機能—ある初産婦の能動的夢分析から。山口大学心理臨床研究, 6, 30-41.
- 山根 望・藤井優子・名島潤慈 (2008) : 母性・母性意識・母親意識・母親同一性の概念の検討。山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要, 25, 185-195.